

# 第 165 回沖縄県新型コロナウイルス感染症対策本部会議

## 議事概要

日 時：令和 4 年 6 月 9 日（木）13:20～14:20

場 所：県庁 6 階 第 1・2 特別会議室

### ・会議の概要

#### <報告事項>

- ◇ 県内における新型コロナウイルス感染症の感染者数や広がり状況、医療提供体制等について、それぞれ所管する本部員から報告があった。
- ◇ コロナ感染拡大警報の取扱いについて、総括情報部より報告があった。
- ◇ 感染拡大時における抗原定性検査キットの活用について、総括情報部より説明があった。

## 1 参加者

玉城 知事、照屋 副知事、池田 副知事、島袋 政策調整監、嘉数 知事公室長、  
宮城 総務部長、儀間 企画部長、多良間 環境企画統括監、宮平 子ども生活福祉部長、  
糸数 保健医療部長、下地 農政企画統括監、松永 商工労働部長、  
宮城 文化観光スポーツ部長、島袋 土木建築部長、名渡山 会計管理者、  
半嶺 教育庁、我那覇 病院事業局長、松田 企業局長、  
県警 平良 県警第二課次席 宮里 感染対策統括監、  
高山 政策参与、テレビ会議システム利用：木村 宮古保健所長、比嘉 八重山保健所長

## 2 報告事項

### (1) 沖縄県新型コロナウイルス感染症対策：警戒レベル判断指標等の状況について

- 総括情報部から警戒レベル判断指標等の状況について報告があった。
  - ✓ 6/8 の新規陽性者数は 580 人程度であり、前週比は 6/1 に 0.70 となっていたが、6/8 には 0.95 と徐々に増加している。6/8 の新規陽性者数は 1,557 名で、先週よりも増加している。本日の陽性者数は、1,353 名となっている。
  - ✓ 入院中の患者は先週より減っており、6/8 の重症者数は 4 名。宿泊施設療養中は 578 名で自宅療養者は 8,838 名と減っている。療養者数は全体で 10,909 名となっている。

(2) 沖縄県内及び全国の感染状況について【資料3、3-1~3-11】

- 総括情報部から、警戒レベル判断指標の状況や各種分析資料について報告。
  - ✓ 非コロナ病床については、6/8の総合計は96.3%で、本島計では97.6%となっている。特に中部では99.8%と高い数値になっている。
  - ✓ 直近1週間の人口10万人あたりの新規陽性者数は1位から5位までを九州・沖縄が占めている。
  - ✓ 各市町村別の前週比を見てみると、糸満市、豊見城市、南城市など南部を中心に増加している。圏域別に見ると那覇、八重山圏域で前週比1を超えている。
  - ✓ 患者受入医療機関の就業制限(休業)状況を見ると、6/8で384名が休業している状況で、看護師が203名、次いでコメディカルが152名、医師29名となっている。
  - ✓ 各歳別人口あたり直近1週間の新規陽性者数の推移について、2021年の1~5月と2022年の1~5月を比較している。感染者は、2022年は2021年の10倍となっている。どちらの年も、1月に20歳の新規陽性者数が大きな山をつくっており、成人式で陽性者が増加していることが伺える。また3月には18歳の陽性者が増加しており、卒業式での感染拡大が予想される。2022年は3月末頃にも20歳の陽性者数が増加しており、これも時期をずらして行われた成人式での感染拡大が予測される。
  - ✓ 年齢別新規陽性者数モニタリングを見ると、6/1の週では17歳の陽性者が前週比1.33と大幅に増加している。
  - ✓ 沖縄県疫学・統計解析委員会の分析によると、沖縄本島の実効再生産数については0.80となっており、全県的に陽性者数は減少傾向にある。しかし、直近の数日間では、宮古を除いて下げ止まってきた可能性がある。
  - ✓ 今週の新規陽性者数は7,000-9,000人と見込まれ、今後の見通しとしては市中での交流やイベントは平時に戻りつつあるため、一定の流行が維持されたまま、

夏の流行を迎える可能性が高いと考えられる。

### (3) ワクチンの接種状況について【資料9】

➤ 総括情報部より報告。

- ✓ 6/7 時点での接種実績として、1回目 71.5%、2回目 70.7%、3回目 44.4% が接種済みとなっており、3回目の接種は高齢者の 83.5%が接種済みとなっている。
- ✓ 県広域接種センターで、6月4、5日にイーアス沖縄豊崎臨時会場で 347 名に接種を行った。
- ✓ 6月18日に読谷村地域振興センター臨時会場は 310 名の接種規模となっている。
- ✓ 追加接種（3回目接種）年代別対象者数及び接種実績では、60歳以上、6月接種の対象者のうち 57.22%が接種しており、累計では 87.73%が接種済み。
- ✓ 企業・団体枠（大学等含む）の接種状況の市町村接種会場の実績として、6/4 に1大学（名護市）で 113 名に接種を行った。

### (4) 県立病院の状況について

➤ 病院事業局より県立病院の状況について報告

- ✓ 6/8 時点の県立病院の入院患者数は全体で 71 名となっており、6/1 報告（86 名）より 15 名減、5/24 報告（101 名）より 30 名減で、減少傾向。
- ✓ 県立病院の入院者数の内訳としては、北部病院 21 名、中部病院 28 名、南部医療センター 11 名、宮古病院 5 名、八重山病院 2 名、精和病院 4 名の計 71 名で、非コロナ病床稼働率は 90%前後となっている。
- ✓ 北部病院では重症患者が 1 名。COVID19 に伴う心筋炎疑い・呼吸不全・横紋筋融解の患者の気管挿管を行い、6/6 に抜管し現在透析を行い HCU で入院中。

- ✓ 中部病院では2つの病棟で発生したクラスターのうち、南5病棟は新たな感染者はなく累計感染者7名全員が治療を終え回復したため、クラスターは終息したと判断した。東5病棟の累計感染者数は前回と変わらず33名で、まだ終息には至っていない。連日コロナに感染した妊婦の複数の分娩があり、分娩後に児の転院搬送を行っているが救急車の確保に難渋している。コロナ感染妊婦が集中し産婦人科の負担が大きい。
- ✓ 南部医療センターでは重症1人(30代で心不全のため人工呼吸、透析中)。6/6にクラスターが発生し、感染者数は本日までに、入院患者5名、職員11名、計16名となっている。センター附属保育園で園児1名が陽性になったが、保育園全員の検査を行い陰性を確認した。
- ✓ 宮古病院では軽症だが透析、妊婦、認知症など注視の必要な患者が多い。職員の休業者は15名で減少している。6/7から外来などの診療制限は解除、病棟の入院制限も解除した。
- ✓ 八重山病院では圏域での新規陽性患者数は減少傾向にあり、入院患者も減少している。
- ✓ 精和病院の入院患者は4名。身体状況の悪化で他院に転送した患者が1名いた。就業制限職員は6名で、病院は通常運用はできている。

#### (5) 宮古・八重山地域の感染状況について

##### ➤ 宮古地方本部から宮古地域の感染状況等について報告。

- ✓ 宮古では週当たり350人程度となっており、1日あたり50人ほど。前週より0.80倍だが、その前の週は0.60倍近く減っていたので、減少率は鈍化している。全国的な下げ率の方が高い。
- ✓ 年齢別に見ると10代が最多で22%。60歳以上の高齢者は10%と下がっている。
- ✓ 施設での感染について、今週は14件ある。前週は12件なのでほぼ横ばい。新

たなクラスターが発生していない影響が見られる。

- ✓ 第7波では150施設で陽性者が発生しており、第6波は75施設でちょうど倍ぐらいだが、1施設あたりの陽性者は第7波のほうが少ない。1施設あたり5人以上の陽性者が発生した割合も第7波では6%で、第6波は12%。施設に関する感染対策は上手くいっている印象
  - ✓ 宮古保健所の体制は患者が減少しているため、動員も減らしている。出先機関からの動員を6名から4名としている。また、制限を行っていた窓口業務についても来週から通常通り再開できそう。
  - ✓ 6/9より多良間村でも無料PCR検査を実施している。
- 八重山地方本部から八重山地域の感染状況について報告。
- ✓ 5/26の週の感染者は238名で前週比1.03倍とほぼ横ばいで、1日当たりの陽性者数は33~34名となっている。
  - ✓ 年齢別に見ると10歳未満、30代が横ばい。40代は下がっており、10代が上がっている。60代は9%でほぼ横ばい。
  - ✓ 小規模離島での療養状況については、6/9竹富で新規感染者数は4名で、療養中が5名となっている。与那国では新規感染者数は23名で、療養中が27名。人口10万人あたり1,000を超えている。2つのクラスターが発生したことが要因。
  - ✓ 1件目のクラスターは、通所のデイサービスで、5/31に1人陽性、6/3までに利用者3名、職員3名が陽性。6/3以降新規感染者は出ていない。
  - ✓ 2件目のクラスターは保育所で発生。6/6時点で職員1人、児童5人。現在は職員3名、児童7名となっている。6/6から6/11まで休園の措置。
  - ✓ 石垣でも職場内のクラスターが発生。48名のうち11名が陽性となっている。
  - ✓ 保健所の体制として、現在は動員なし。6/6に連絡会議を開いて、情報共有。

- ✓ 臨時の接触者 PCR 検査センターが 6/6 より稼働中。

(6) 空港 PCR 検査プロジェクト・TACO・RICCA の運用状況等について【資料 10】

- 文化観光スポーツ部から、空港 PCR 検査プロジェクト・TACO・RICCA の状況について報告。
  - ✓ 空港 PCR 検査プロジェクトについて、5/30 の週の受検者は 2,535 名で、前週比 -349 名。内訳は、県内在住者 2,381 名、県外在住者 154 名、陽性者は 52 で、陽性率は 2.1%。
  - ✓ 那覇空港抗原検査について、受検者は 276 名で、対前週比-77 名。うち県内在住者 232 名、県外在住者 44 名、抗原検査陽性は 2 名であった。陽性者は迅速 PCR 検査での陽性者となっている。
  - ✓ TACO について、5/30 の週の電話対応件数は 27 件で、うち健康相談・問診実施数は 6 件となっている。
  - ✓ RICCA について、6/3 時点の登録者数は 150,655 名となっている。(前週より+232) 登録施設等は 19,199 件。(前週より+23)

(7) コロナ感染拡大警報の取扱いについて【資料 11】

- 総括情報部より、コロナ感染拡大警報の取扱いについて、説明があった。
  - ✓ 本島圏域の病床使用率について、4月中旬に 60%を超えるような状況であったが、現在は 40%まで下がっている。
  - ✓ 宮古圏域の病床使用率について、5月中旬に 60%を超える状況であったが、現在は 1 桁台で推移している。
  - ✓ ゴールデンウィーク後の感染拡大により、本島・宮古圏域において病床使用率の上昇がみられ医療のひっ迫が想定されたことから、5月 13 日より本島・宮古圏域にコロナ感染拡大警報を発出し警戒を呼び掛けたところである。

- ✓ 県民の取り組みにより、本島圏域、宮古圏域ともに、新規陽性者数の減少、病床使用率の低下がみられ、医療ひっ迫の懸念が後退したことから、6月9日の期日をもってコロナ感染拡大警報を解除する。
- ✓ しかし、本島圏域の病床使用率は未だ40%台と高い水準にあり、新規陽性者数においても増加の傾向が見られる年代があることから、病床使用率の回復には今しばらくの時間を要する。
- ✓ コロナ感染拡大警報の解除後においても、未だ感染者の多い若い世代や入院リスクの高い方々への呼びかけを以下の通り実施し、医療のひっ迫を防ぐために、引き続き基本的な感染対策について協力頂く必要がある。
- ✓ 警報解除後も若い世代へ、基本的な感染対策の実施、リスクの高い人を守るよう意識した行動の心がけ、症状がある時には外出を控えること、ワクチン接種の推奨、イベント参加時における感染対策の徹底および直行直帰を呼びかけていく。また、ハイリスク者とその家族へリスクの高い場所への外出を控えること、ワクチンの積極的な接種を呼びかける。

#### (8) 感染拡大時における抗原定性検査キットの活用について

- 総括情報部より、抗原定性検査キットの活用について説明があった。
- ✓ 新型コロナウイルス感染症における感染拡大時の臨時的対応として、医療機関への小児受診者の集中を回避することを目的とし、沖縄県内の小中学校・高校生の有症状者及びその濃厚接触者となりうる同居家族が自宅で検査を受けられるよう、6/13から抗原定性検査キットの配布申込の受付と配送を委託により実施する。配布した検査キットは有症状者に使用するため、行政検査の対象となる。なお、陽性時は県抗原定性検査・陽性者登録センターに申請することで、医師の電話問診につなぐことが可能である。
- ✓ 沖縄県が購入した検査キットを委託業者に引き渡し、委託業者は検査キットの

セット作成として、検査キットの小分け、説明資料の梱包、また、受付及び申請者自宅あて発送（県内離島の場合は引換書の発行）を行う

- ✓ 配布の対象者は有症状の個人（小中学生）とその濃厚接触者となりうる同居家族で、住民及び長期滞在者に限る。また、濃厚接触者は発症後に検査キットを使用することとしている。検査を実施し、陽性時は沖縄県抗原定性検査・陽性者登録センターに申請を行う。
- ✓ 県内離島の役場等では、検査キットの保管、引き渡し業務、検査キットの台帳管理を行う。
- ✓ 事業名を Rapid-Antigen-kit Delivery Center Okinawa を略し親しみやすいよう RADECO（ラデコ）と仮称した。
- ✓ 新規陽性者が少ない期間であれば現状の学校・保育 PCR は機能するが、陽性者の増加に伴い、1日の申請が40校を超えると約5日間の検査遅延が発生することを昨年の夏、今年の1月および直近の第7波で確認しているため、検査の切り替え（分散）により、遅延を解消する必要があり抗原検査キットを活用し迅速に有症状者の診断を行うこととする。
- ✓ 家庭については抗原定性検査キットと中部・南部接触者 PCR 検査センターを案内している。保育園、幼稚園については保育 PCR を当面継続する体制で、少、中、高校については当面学校 PCR を併用しつつ、今後は抗原定性検査キットに移行していくことを想定している。

#### （9）質疑応答について

- ✓ スキームの中で県内離島の役場等とあるが、石垣市、竹富町、与那国町では学校 PCR を使っていないがどのようになっているか。  
→宮古、石垣についてもこのスキームを適用することが可能であると考えている。現在保健所での調査により濃厚接触者の特定等を行っているが、数が増え、

対応が難しいときなどを含めてこのスキームを併用することは可能。

閉 会